

報道関係者各位

平成 20 年 4 月 1 日

森ビル株式会社

都市の緑を育てる市民参加型コミュニティ「ヒルズガーデニングクラブ」が発足

森ビル株式会社（東京都港区 代表取締役社長 森 稔）が運営する「アークガーデニングクラブ」と「六本木ヒルズ ガーデニングクラブ」は、2008 年 4 月より統合し、新たに「ヒルズガーデニングクラブ」が発足いたします。当クラブは、当社施設における緑地を舞台にガーデニング活動に参加し、都市の緑を育てる市民参加型のコミュニティです。



1997年に発足した「アークガーデニングクラブ」では、アークヒルズ近隣住民の方を中心に構成された約100名のメンバーが、専任ガーデナーの指導のもとガーデニング活動に参加し、緑の管理、運営を自主的に行ってまいりました。また、アークヒルズでの実績をもとに、「六本木ヒルズ ガーデニングクラブ」が2005年4月に発足し、活動を続けてまいりました。このたびガーデニングクラブの活動の幅やエリアを広げ、より積極的なコミュニティづくりに貢献するため、2つのクラブを統合した「ヒルズガーデニングクラブ」が発足いたしました。当社では、ガーデニングクラブの活動を通じ、都市と自然の共生を目指す「ヒルズ」の街づくりにより多くの方々にご参加いただき、緑が育むコミュニティの形成に寄与しながら、今後も地球環境に優しい魅力ある街づくりを積極的に推進してまいります。

当社は、「Vertical Garden Cityー垂直の庭園都市」というコンセプトのもと、「環境と緑」をミッションのひとつに掲げ、開発によって生まれたオープンスペースや建物の屋上を可能な限り緑化することで、豊かな都市環境の創造に努めてまいりました。単なる環境対策としての緑ではなく、都心にありながら四季折々の自然を楽しむことができる豊かな緑を提供することで、緑化を通じた都心におけるコミュニティの形成に貢献すべく、ガーデニングクラブの運営や各種イベントの開催を行っています。

開発を通じた継続的な都市緑化の推進やコミュニティ形成への貢献が評価され、2006年には世界の優れた環境プロジェクトとしてアークヒルズがオーストリアの国際的環境賞「National ENERGY GLOBE AWARD Japan」を受賞、2008年には企業として、第17回「地球環境大賞」での「国土交通大臣賞」を受賞いたしました。

ヒルズガーデニングクラブ概要

定員：150 人（申込先着順）

入会金：¥10,500-（税込）

年会費：¥45,150-（税込）

※講習会やイベントは別途費用がかかります。

定例活動：土曜日 月 3 回 10：00～12：00

全 30 回（1 月・8 月休み/雨天中止）

自主活動：毎週火曜日

10：00～12：00（アークヒルズ）

毎週水曜日

10：00～12：00（六本木ヒルズ）

活動場所：アークヒルズ（アークガーデン 7 つの庭）

六本木ヒルズ（六本木さくら坂）

指導：園芸家 杉井明美



アークヒルズ

1986 年に誕生。都市と自然の共生を具現化した、森ビルの都市開発の原点。

沿道の桜並木や七つの庭からなる「アークガーデン」は、20 年の歳月を経て都市の生態系を育み続ける取り組みとして国内外で高い評価を受けている。

六本木ヒルズ

文化都心をコンセプトに、多彩な機能が複合した街として 2003 年に誕生。建物の屋上やオープンスペースには、水田や庭園などの豊かな緑が広がる“垂直庭園都市”。2005 年、日本原産植物をテーマに、ガーデニングクラブの活動エリアを六本木さくら坂に開設。

杉井明美プロフィール

園芸家。有限会社風のみどり塾主宰。

アークガーデン内にある全ての庭と六本木さくら坂内クラブ活動エリアの、デザインからメンテナンスまでを手掛ける。

千葉県生まれ。女子美短大卒。生家は千葉県安房郡の(株)杉井農園。

VAN ジャケット経営の観葉植物専門店「グリーンハウス 404」店長を経て、現在に至る。

NHK「趣味の園芸」をはじめ、多くの園芸教室の講師をつとめる。

コンテナガーデンの普及にはじまり、都市のランドスケープまで幅広く手掛けている。

自然な風合いを大切に植栽や寄せ植えは、ガーデニングファンから絶大な支持を得ている。



＜本件に関するお問合せ先＞

森ビル株式会社 広報室 野村・一木

TEL: 03-6406-6606 FAX: 03-6406-9306 Email: koho@mori.co.jp

＜ヒルズガーデニングクラブ事務局＞

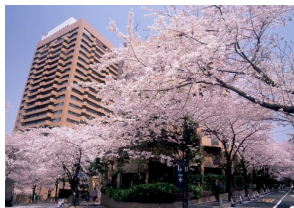
TEL: 03-6406-6664 FAX: 03-6406-9365

アークヒルズの緑

赤字:ヒルズガーデニングクラブ活動場所

1986年に竣工したアークヒルズは、当社の都市づくりの原点であり、20年以上の歳月が育んだ成熟した緑を楽しむことができます。サントリーホールの屋上庭園を含む7つの庭園「アークガーデン」には、季節を感じられる四季折々の草花が植え育てられ、野鳥等の小動物が集う豊かな生態系が育まれています。

■桜並木



敷地を取り囲む三方の道路(桜坂～スペイン坂)に植えられた全長700m、150本のソメイヨシノからなる桜並木。



■パレットガーデン

六本木通り沿いのボーダーガーデン。ガーデニングによって以前は150台以上あった違法路上駐輪の一掃に成功し、2003年に施行された“東京ふれあいロード・プログラム”の最初の事例に認定されている。

■バックガーデン



苗のストックや腐葉土づくりなど手入れの準備を行う場所。

■メインガーデン



アークガーデニングクラブの主な活動場所だったコミュニティガーデン。ガーデン内の池では、毎年カエルの卵が生まれ、おたまじやくしが孵っている。

■ルーフガーデン



“上から見て楽しめる”ことをコンセプトにつくられた、英国の国旗“ユニオンジャック”をデザインモチーフとした庭園。落ち葉や枝のコンポスト化や、野鳥のための巣箱の設置に取り組んでいる。

■ローズガーデン



日本原産および古代日本に渡来したバラを、現代のスタイルでデザインし植込んだ庭園。バラの季節には、美しいバラのアーチがかかる。

■フォーシーズンズガーデン



「日本原産」および「古代日本に渡来した植物」のみで構成する庭園。

■コンテナガーデンヤード



約50器の色とりどりのコンテナを設置した庭園



六本木ヒルズの緑

赤字:ヒルズガーデニングクラブ活動場所

2003 年にオープンした六本木ヒルズでは、開発を通じて約 68,000 本に及ぶ樹木が植えられ、新たに約 1ha の緑地が生まれました。シネマコンプレックスの屋上に設けられた地上 45m の水田を有する屋上庭園や、伝統的な日本庭園、英国風の屋上庭園等、多様なグリーンスペースが広がっています。

■けやき坂コンプレックス屋上庭園



地上 45m、六本木ヒルズのほぼ中央に位置する約 1,300 m²の屋上庭園。日本の“農の風景”を再現するため設けられた水田は、コミュニティ活動の場として利用。



■66プラザ

六本木ヒルズのメインエントランス。賑わいあふれる広場に植えられたケヤキやクスノキの木陰は、街を訪れた人々の休憩場所として利用される。

■毛利庭園



旧跡を保全しながら、新たに再整備された日本庭園。約 4,300 m²の面積を誇る回遊式の庭園には、開発前の既存樹木が移植・修復されて植わっており、歴史と四季を感じられる空間となっている。

■六本木けやき坂通り



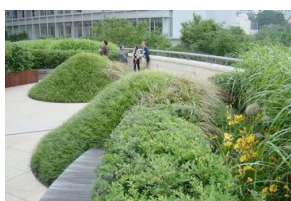
約 400m 続く六本木ヒルズのメインストリート。ケヤキが 51 本、その他クスノキが 6 本植えられている。足下の花壇には、東京産の花を使うことで「緑の地産地消」への新しいモデル作りへの取り組みが行われている。

■六本木さくら坂



六本木けやき坂通りとほぼ平行に走る、63 本のサクラが咲き誇る静かな散策路。ガーデニングクラブの活動によって、サクラの足元に日本の植物が植え育てられている。

■レジデンス屋上庭園



イギリスのランドスケープデザイナー、ダン・ピアソンが手がけた中世の田園風景をモチーフとする英国風庭園。上から見ると、それぞれの建物の緑がつながり、リボンのように見える。